

地方都市視察報告書

文教子ども家庭委員会

1 実施日 令和元年11月8日(金)

2 視察地 香川県

【県の概要】

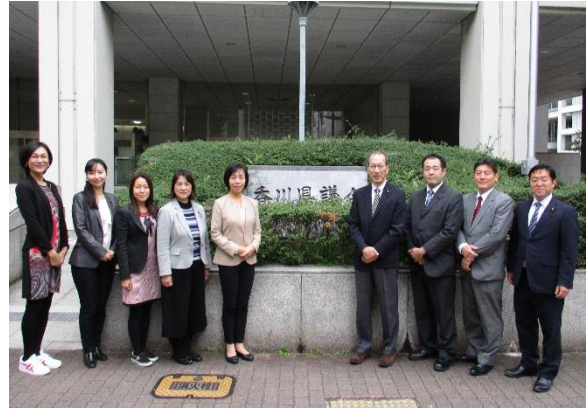
(1) 面積 1876.55km²

(2) 人口・世帯数

(令和元年9月1日現在)

○人口 956,291人

○世帯数 408,464世帯



(3) 香川県は、瀬戸内海に面し四国の北東部に位置し、県庁所在地は高松市である。県名は、旧讃岐国のほぼ中央に存在し、かつて高松が属していた古代以来の郡である香川郡からとられた。面積が全国で一番小さい県だが、災害が少なくコンパクトな中に都市の利便性と豊かな自然が調和した生活環境を併せ持つ特徴を有する。また、香川県は平野が多いことから県全体の人口密度が高い。北部に広がる瀬戸内海には、小豆島など多くの島々が点在している。本州の岡山県とは島々を伝う形で架けられた瀬戸大橋により、道路・鉄路で結ばれている。麺のコシがしっかりとした讃岐うどんや、こんぴらさんの愛称で親しまれる金刀比羅宮、空海の生誕地としても知られる善通寺(四国八十八箇所の一つ)、寛永通宝の銭形砂絵で知られる観音寺、対岸の倉敷市児島から坂出市にかけて海上に架けられた瀬戸大橋が有名である。

3 視察項目・内容

ネット・ゲーム依存対策の取り組みについて

4 視察参加者

【委員】

おぐら利彦委員長

沢田あゆみ副委員長

三沢ひで子委員

小野裕次郎委員

大門さちえ委員

よだかれん委員

野もとあきとし委員

桑原ようへい委員

鈴木ひろみ委員

【随員】

議会事務局議事係

黒木 明子

仙崎 雄介

5 視察結果・所感

香川県教育委員会では、小学生・中学生を対象とした学習状況調査において、スマートフォン等の利用時間が年々増加傾向にあることや、スマートフォン等の利用時間が長い児童生徒ほど、問題の平均正答率が低い傾向にあることから、児童生徒に対するネット・ゲーム依存対策に取り組んでいる。また、世界保健機関（WHO）は、令和元年5月にオンラインゲームやテレビゲームに依存して生活に問題が生じている状態を「ゲーム障害」として新たな疾病に認定した。

平成26年度に各市町教育委員会や県PTA連絡協議会等とともに「さぬきっ子の約束」を策定した。県内すべての児童生徒と保護者に配付し、家庭でのルールづくりの重要性を啓発している。また、スマートフォン等の利用頻度が高い保護者への意識づけが重要であるとして、幼児（3・4歳児）検診の際に保護者向けに、適正利用に関する啓発冊子の配布を行っていることが印象的であった。

さらには、ネット依存症の治療で有名な国立病院機構久里浜医療センター（神奈川県）と連携して、当病院が実施するゲーム・インターネット依存の予防等に関する研修に教員等を派遣したり、専門医を招いてスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの研修を行っており、専門的知識を習得し、相談対応に取り組んでいる。

新宿区においても、スマートフォン等を利用する児童生徒は今後ますます増加が予測されることから、依存症にならないための早期の予防対策に取り組むことが重要である。

6 主な質疑項目

- (1) ネット・ゲーム依存対策に取り組むきっかけについて
- (2) さぬきっ子安全安心ネット指導員の育成について
- (3) 医療機関（国立病院機構久里浜医療センター）との連携について
- (4) ネット・ゲーム依存予防に対する保護者への働きかけについて
- (5) スマホ育児等、乳幼児への影響に関する保護者への周知について
- (6) SNSでのトラブル等に対する相談対応について
- (7) 県内市町村や警察など関係機関との連携について
- (8) ネット・ゲーム依存症の児童生徒数について